

□ 随 想 □

平野神田町

中 村 立 行

小雨の降るある日、三十年ぶりに平野を訪れる機会を持った。時々、仕事で神戸に行くことはあつても、スケージュールや同行者の具合で自由時間が持てず、生れた町を訪ねることがなかつた。

市電の平野終点付近は記憶と一致するものはないが、ただ、終点間きわで電車がカーブするところが、その角度は変つていない。

昔、神田町の家に帰るのに近道をするため、カーブで電車がスピードを落とすときにひらりと飛び降りたものだ。兄達の真似をしたものだが、小学生の私が電車からすんなり飛び降りることが出来たものだからのんびりした時代であつた。

平野の町はすっかり変つていた。しかし、昔と同じ方向と角度に従つて角を曲り、神田町の横丁に入つたとき私は思わず立ち止つた。そこは、記

憶と殆んど變つていない。一步一步、左右の家を、壁を、石垣を、なめるように見ながら最後の狭い横丁の角に立つた。

私の生れた家は五十年前の姿そのままにそこにあつた。平野神田町二一〇番地。

道幅がひどく狭く感じられ、家々や石段なども小さく見えたけれど、風雨に枯れた壁板の木目、底に煉瓦を敷いたドブ川、それに渡した曲つた御影石の敷石。隣りの家、向いの家。

私は大正元年その家に生れ、神戸三中に入學するまで、母と六人の姉の末っ子としてそこに暮した。小学六年生の二学期の始業式を終えて帰宅し、昼めしを食べているとき、生れて始めての大きな地震があつた。九月一日、関東の大震災であつた。

その家には狭い庭に塀からはみ出るように数本の青桐の木があった。記憶は漠然としてとりとめない、一方、極めてこまかいことがありありと思ひ浮ぶことがある。青桐の繁った葉の匂いなど。母がはれぼったい目に涙を浮かべながら二階の八畳の間で琴をひいている。母が琴をひいていることは幼い私にとって退屈で、その邪魔をするように母のひざに頭を置いてねそべり甘えていた。あけ広げた二階の窓から繁った青桐の緑色の光りが反射し、母の顔も緑色に染められていた。なぜ、母は独りでいるとき泣いていたのだろうか。

中学に行くようになって私はその原因を知ったその年、長らく別に暮らしていた父と、その愛人とそしてその二人の子供達と、私達みんなが山王町の新築の大きな家に住むことになったのだ。

お妾とその子供と、本妻と六人の兄弟が、仲良く一つ家の下に住んで大平洋戦争の終結までそれは続く。家族の者が皆、徹底した個人主義、自由主義であったからこの不思議な家族構成は、多少のいざこざの内に長いこと続いたのである。

神田町と山王町は平野終点を中心に東と西。

まったく近いにもかかわらず、反してそのために中学の五年間は勿論、美術学校在学中の度々の帰省のときも、終戦後、ときたま神戸に行くときがあっても尙、ついで生れ故郷の神田町を訪ねることはなかった。

私は今はもう、神戸に対する郷愁は殆んど持っていない。現実の生活のきびしさが無駄なオセン

チを追っ払ってしまうのか、日本中のどの都会も人間生活も類型化されてその特色を失ってしまつたことが思い出の感傷をさまたげるのか。

やはり「ふるさと」は速きにありて思うもの」であるようだ。

しかし速きにありて思うとき、断想は次々と脳裏をかすめてきりが無い。

夏休みに毎日、日が暮れるまで泳いだ天神浜。そこに売っていた関東だき。夕食後、兄弟に連れられて歩く夜の元町。文化の匂いに充ちた元ブラ日曜ごとに友達と歩き廻った神戸の裏山。再度山ヤトウエンティ・クロス。目玉の松ちゃんのチャンバラを見た錦座、エディポローなど連続活劇に夢中になった朝日館などのあった新開地。

新開地は立飲み洋酒屋や琉球泡盛の店などが美術学校時代の私を酒飲みにしてしまった。おそろしいまでに魅力に充ちた庶民の歓楽街だ。

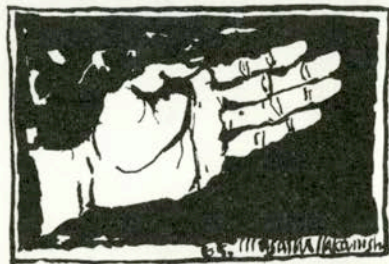
はしごをかついで瓦斯灯に火を入れにくる夕方の裏通り。なんの歌だったか「相生橋鉄橋、汽車通る——」その相生橋を人力車が通るのや、わけもわからず恐ろしかった米騒動、とまで思い出が古くなると、母の乳房の感触までが浮び上ってくる。

母は夢野の奥の墓に居る筈だが、それも移転されたことを知りながら訪ねてみる機会もない。みんなすんだこと、古い昔のことなど思い出してみたとして仕方がない。

〈写真家〉

空手

阪本 勝
え・中 西 勝



さる十月二十二日、神戸市立中央体育館の落成記念行事として、諸種の催しがあったが、その一つとして、空手の競技が公開された。私は毎日新聞空手教室の会長として、あの大競技場の中央正面に陣どり、終始たのしく観戦した。観覧席には予想以上の観衆が詰めかけたので、世はまさしく空手ブームじゃ、わが意を得たり、とよろこんだ。空手は唐手とも書いてカラテと読む。起源は明らかでないが、ものの本によると、中国の唐時代にまともった拳法につたわり、独得の発達を上げたものといわれている。

沖繩が歴代の王様に統治されていたときも、降って薩摩藩の属領となってからも、いっさいの武

器の使用が禁止されていたので、護身術として、練磨されてきたものだという。

ところで、今年のはじめ、毎日新聞神戸支局長の細川君から、毎日空手教室を作るから会長になってくれと頼まれたので、そのガラではないとは思ったものの、毎日私は私が大学卒業後勤めていた新聞社でもあり、若いものの熱戦をしばしば見ても若がり一つとも考えて、ひきうけた。それから私と空手との関係が急に深くなった。

おかげで、ちよいちよい知人にひやかされる。

「サカモトさん、あんたカラテやりはりまんのか。知らなんだなあ」とか

「会長席にいるのは恥かしまっしやるな」など

とかれらがいうのは、つまり私がカラテ会長のガラじゃないということの意味しているにちがいない。いかにも痩せがたの私はそのガラでないに見えるだろう。しかし私には私なりの感想がある。

唐手というものはじめて見たのは、知事在任中神戸の商工会議所で唐手競技が公開されたときだった。どこの主催でだれが出演したかおぼえていないが、私はそのとき、唐手なるものに一種の神秘なるものを感じとった。というのにはさききのべたように、沖繩の唐手は、武器を剝奪された被圧迫民族のなかで育ったものだから、横溢した精神力がいわば内攻して一種不可思議な人力じんりきとなつてゐるのを私は見逃さなかつたのである。私はそれを尊いと思つた。会長就任を承諾したのは、そういう気持が動いていたのも一因だと思ふ。

唐手は腕力とくに拳力と脚力をフルに駆使する武技だが、柔道とちがうのは、ハッキリした勝敗のけじめがなく、勝敗はすべて審判の判定によるという点だ。柔道にはわざというものがあつて、立ちわざでも、寝わざでも、勝敗は素人の目にもだいたいわかる。しかし唐手では、拳力をそのまま發揮すれば、相手のあばら骨や頭蓋骨を打ち砕くか内臓を破裂させるかは必定だから、危いところところで拳をとどめるか、引っこめるかしなければならぬ。見ていてハラハラするのは、こういう瞬間だ。柔道ではきれいなわざがきまつたときなど胸のすく思いがするが、唐手にはそれが無い。それだけに、演技者ははげしい気魄をみなぎらせ、マナジリを決して対決する。しかし勝敗はわざによるものでなく判定によるものばかりだから、素人目にはちよつと物たらしめ感じがするようでもあ

る。だが、そこに唐手道の妙諦があるのだと思ふ。

唐手をやりだした連中とつきあつてゐるうちにつくづく感じることは、かれらの起居動作やことばの使いかたが、どことなくやわらかく洗練されてくるということだ。肩をいからせたり、武骨なふるまいをすることはしぜんになくなり、一種独特のものやわらかな人柄ができてくる。いわば虎の威力を秘めた羊のようなもので、これはあらゆる武芸の理想とするところだろうが、とくに唐手においてその感が深いと私は見る。

このところ、唐手は全国の大学や一般人のあいだにしたいにひろまり、世間の注目をあびてゐるこれはたしかに好ましい傾向だ。(モンキー・ダンスなんてみちゃおれん) 細川君は早稲田時代に唐手を修めた人で、今でも胴着をつけて若いものともやりあつてゐる。菅野師範の人柄は得がたいものだ。この二人の指導者を得て、神戸の唐手はこんごますます隆盛の途をたどるだろう。まことに嬉しいことだ。私も会長就任記念に胴着をもらったので、春秋の気候のいいときなど、素肌すみにそれを着て本を読んだり、原稿を書いたり、庭を散歩したりする。何という生地じちでできているのか知らないが、すべすべしてすこぶる気持のいいものだ。いつか大阪の今東光がやつてきたとき、胴着姿で出てやつたら、例のとおり、大きな口をあいて、わっはっはと笑い、「わあ、カラテやつとるんか。そらええ。強いカ」

「うん、強いぞ。この黒い帯を見る」

「きみみたいな痩せっぽはは、せめてゲンコツでも強くなつておけ」とぬかした。

△随筆家▽

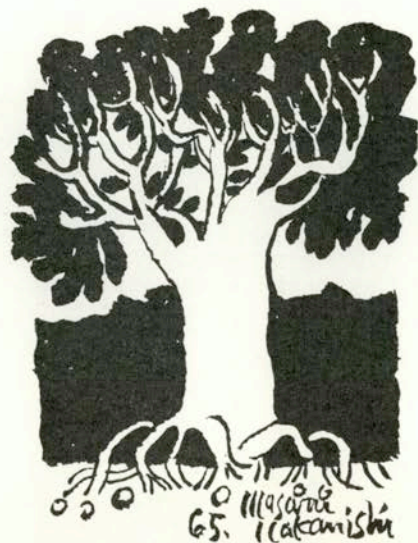
父馬陵のここと断片

島 京 子

え・中 西 勝

私の父は福島県相馬の出身ですが、内務省から兵庫県庁へ赴任してきました。ずっと昔の明治の終りごろのことです。そのまま兵庫県におり神戸に住んで昭和三十二年のはじめ、数え年八十七歳で辞世の漢詩を残して亡くなりました。

父の生れた家すじというのが、相馬藩の普請奉行でもあり、代々お殿さんに儒学をも教えていたといえますから、藩内での羽振りはよかったです。父の父は常易といひ非常に温厚篤実、誰に対しても一貫した態度を変えなかったということ。そのため百姓の人たちから慕われすぎていつも貧乏していたということ。常易の肖像画が私の六歳ごろまであったのですが、その後どうなったかわかりません。父の妹は幾世橋家という名家に



嫁いだのですが、お殿さんの従兄である亭主は、ある夜宴会からの帰り川を泳いで心臓マヒで亡くなりました。子供はなく、その妹は戦時中に郷里で亡くなったのですが、死亡通知の電報がくる前の早朝、目を覚めた父が、「どうもおかしい、じん（叔母の名前）が死んだような気がする」と言っていたのを覚えています。父と八歳違いの弟は昔の神戸商大を三番の成績ででて、山本家に婿養子にゆき、御影村の村長をしたりしていたのですが、これは妹より早く死んでいます。子供はありません。

戦災にあうまで、住吉の海に近いところに住んでいた父の従兄がいました。荒忠男といい、フランス語に堪能な外務官僚で、中国のチーフに

いつていたときの話をきいたことがあります。子供の私たちが遊びにいつていたころは、まだそんなに年寄りでもないのに悠々自適の生活ぶり、浜に投網にいつたり、投網にいつて鷹をとつて帰り、二階の物干場でその鷹を飼っていたりしました。よくかわいがつてくれたので、なんべんも遊びにいつたのですが、戦災後子供のない荒廃婦は郷里に帰り、その後の消息はわかりません。

父の自慢は六歳のとき、常易に言われて書き写した四書五経の大冊を明治天皇が見たということ、当時の教育方法がうかがわれるのですが、父はできたばかりの小学校四年制の学校をでています。小学校四年きりしかいつていない、ということがまた父の自慢のひとつでした。十四歳から二十歳前後まで小学校の教師をしていましたが、その後東京へでて、高等文官試験史上最年少の合格者となりました。内務省では後藤新平の下で働きた大へんかわいがられたといえますから、ほんとうに古いはなしです。毒舌家であった父も、後藤新平のことばかりは、いつもほめ、額に入れた新平の大礼服の写真を床の間の隅に飾っていたのをよく覚えています。

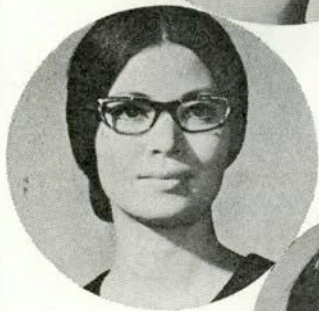
父が結婚したのは県庁をやめ、その後しばらく奉職した県下の柏原中学の教員もやめたあとで、することがなくなつたので、女房をもつたような感じがしなくてもないのですが、母は明治三十五年生れで、大正十一年に父と結婚したわけで、明治四年生れという父とはえらい年がちがいます。この前も神戸新聞の中平邦彦記者に父のことを話していると、「それがはじめての結婚でほんまですか、再婚とちがいますか」ときかれたのです

が、戸籍をみても、古い人にききあわせても、ほんとのことでした。

母は広島県府中の旧家の娘で、神戸の塩原という女学校で和裁を習い、そのあと学校で先生の助手のようなことをしていたときいています。当時の母を知っている人から、非常にやさしく、おとなしく、色が白かったとききました。母は子供を四人残して昭和十四年に亡くなりました。

父は姉には文字、私には井の字の横が一本きりの字をあて、きょう子と名づけました。妹はすい子ですがすいという字が刃にあらわず久にあらわずにあらず、おかしな字でしたので、名前では苦労したものです。先だつても作家の富士正晴から、「そんな名前つけよつて、馬陵(父の雅号)は学ありの学なしやな」といわれ、同席していた京都の学者杉本秀太郎から「なんや、おむつ干しみたいな字の名前やなあ」とわられました。三人姉妹のほかは弟が一人います。一番下ですが、ずっと病氣療養中です。

こんな父が後藤新平のほかにもほめていた人が二・三人おりました。その一人は荒田町にある浄土宗のお寺宝地院の先代の和尚です。先代の姿は私もよく覚えています。父につれられて、焼ける前の宝地院にاندかゆきました。小柄でいつも柿色の法衣を着ていました。父のはなしによると、彼はお布施の中身を暗がりて箱の中に入れてしまい、決してその額を知ろうとはしなかつたといふのです。宝地院のいまの和尚さんが、父の命日にはお経をあげにやってきました。この和尚から、姉弟の中で私が一番父に似ているといわれます。一番父を嫌っているのも私なのですが。〈作家〉



おしゃれ



メガネの

神戸眼鏡院

元町3丁目 ☎ 3112 ☎ 1443

三宮店 三宮地下街 ☎ 1874-5

おしいちやまやおはあちやまの
時代から神戸っ子に
親しまれてきたゴーフルのお店
風月堂がシルバークレイの
地下の街
さんちかタウンに開店しました
伝統のフランス風洋菓子と
日本のおくゆかしさを
たくみに表わした
和菓子のかずかずを
スイーツタウンで どうぞ



神戸にそだって 70年



元町3丁目 TEL ☎ 2412~5

さんちかスイーツタウン TEL ☎ 3455

シルバーグレイのさんちか
ファンシータウンに、時計の
美田が開店しました
お気軽にお立より下さい



ロンジン・セイコー 特約店
美田時計店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798
三宮店・三宮地下街 TEL33-8798

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店 / 三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店 / 三宮センター街・電話 33-0629

三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

東京

新橋店 / 新橋 2 丁目・電話 571-0807

銀座店 / 小松ストア-地階・電話 572-5151 (代)



□神戸っ子放談□

伝統から生れた辛口の風味

嘉納 毅 六 (菊正宗酒造株式会社社長)

日本屈指の名醸といわれている「菊正宗」は神戸の灘の酒である。本嘉納家の当主、嘉納毅六さんは技術畑の出身だが流石に味覚の話となると熱がはいるし豊富なものである。これからは酒の季節でもある。ご面倒をいって神戸っ子の放談をお願いした。

神戸っ子としての生い立ち

神戸にきてから二十年以上になります。うまれば千葉

でしたが、ほとんど東京で育っています。中学から大学まで東京でした。高校は成城高校で、これはいまのひとは知らないでしょうが、七年制だった。関西では甲南がやはり七年制でしたね。それから東大の農芸化学にすすんだわけです。

三十にすこし前のころ神戸にきて、あれは昭和十七年でした。ちょうど戦争がはじまって騒然としていたころ

ですから、戦前の神戸のよさは味わうひまがなかったんです。それで戦前の神戸はほとんど知らない。みんな焼酎がまったんでね。考えてみると、二十年以上暮した土地は、神戸以外にないですよ。だから準神戸っ子ともいうのでしょね。私は戦後の新しい神戸しか知りません。神戸っ子としては戦後派になるんですよ。

べっぴんの酒はいただけない

私は酒は飲めないのですよ。さかずき一杯しか以前は飲めなかったのが、商売柄多年修練の結果、ようやく十杯になりました。十倍になったというんですが、十倍で一合たらずじゃあ相手にしてくれません。まあ、毎晩飲むことは飲むけれど、それは味をみるためなんで、ほんとうは酒はキライなんです。飲むよりはむしろ食べるほうが好きですね。

酒造りのうえでは、いちばん苦勞するのが、どうやって特徴をだすかということになります。特徴のある酒をだすのが社でもあり、私の考え方でもあるんですね。昔は酒がくさったりしたけれど、いまでは技術が発達して、キレイになりました。昔風にいうとべっぴんすぎちゃって、おもしろみがなくなっちゃうんです。もちろん品格のある商品である以上はキレイでなくちゃいけない。しかし、特徴をだそうというのは、キレイで終るんじゃないダメということでしょう。うらがえすとクセのあることなんですからね。特徴をだそうとして苦勞していても、うっかりするとひとりよがりになりがちなんです。灘の酒は原料やなんかが大体おなじで、結局、温度と時間の管理で特徴を出さなくてはならない。「菊正宗」は辛いのが特徴です。戦後はあらゆるものがソフト化して、酒も甘くなってとっつきやすくなった。技術が向上したのが、キレイで甘いソフトな酒になったわけです。だがこれは、イージーゴーイングですね。ほとんど甘くなってしまっただけで、日本酒は甘いもんだということにされているわけです。灘は昔から宮水の関係で、男性的な風格がある味なんです。シャキッとした味なんです。だ

から、一度ファンになると、他では飲み足りない。代りのものがないわけです。まあひとくちに辛口といっても甘くないとかしぶいとかありますが、ひとから独特のしぶみがあるといわれるような味が「菊正宗」にはあるんです。昔にくらべると絶対的には甘くなっているけれども、他の銘柄にくらべると辛いですね。それで、二次会とかその後飲みなおそうというときには、あまり向かないかもしれない。だが、はじめから飲んでみると、ほとんど量がすすむような感じでしょうね。

たいてい辛い酒というのは、あぶらっこいものと合うんです。日本酒は一般に刺身、酢の物と合いますが、辛口はあぶらっこいものに良いんで、ブドウ酒にも區別があるのと同じようなことがいえると思います。白身の魚には白、あぶらっこい肉の場合には、舌をキニツと刺すような赤を使うでしょう。そういう使い分けは日本酒の場合にありますね。

キレイな酒をつくるのはやさしいですよ。ある程度米の精白を高めてやればなるんです。田舎の酒が、いまはみんなキレイになっちゃって、どこの製品かわからない。それにくらべれば、味の多い酒はむづかしいですね。十月に、私の会社では四季醸造工場ができました。御影の酒造をはじめたのが万治二年（一六五九年）で、三百年かたつわけですが、その歴史と伝統を踏まえて、近代的な技術の粋を加えた工場です。うまみというのは、伝統的なものが独自のやり方でうまい具合に残したもので、新しい技術や学問ではとてもそこまでいけないものなんです。新しい学問では、純粋にする方は砂糖でもアルコールでもずいぶん進みましたが、黒砂糖とか、岩塩とか、不純な甘さや味覚はできない。複雑な、味の多いものですね。まあ、そこに伝統的なうまみもっているつよさがあるんです。今の科学と、昔からの伝統を生かして、もっと良い味をだそうということなんです。

魚と肉の神戸

神戸のたべもので、これはうまいと思うのは、まず魚ですね。鮭の好きなほうですが、東京へ行ったときにたべるとうまくない。瀬戸内海の魚は、味のしまったものなんでしょね。鮮度の問題もあるけれども、それだけじゃなくて、東京あたりの魚は美味です。どうもいただけない。神戸でたべると、そりゃあ違いますね。小味の魚が、瀬戸内の海では育つのでしょ。

神戸肉というのは、実際のところ、うまさがよくわからない。味覚は半分以上印象によるものなんでしょからね。神戸肉と他のところの肉と同じに料理して、うまいものを二つならべてたべくらべをした上でないとかからないですな。しかし、神戸肉というのは大変なものだということは、よくわかります。私は商工会議所の食品部長をしているので、食肉の不足が問題にされています。緊急輸入しなけりゃならないという話があります。それで考えるのだけでも、神戸肉はもっと宣伝すべきだと思うな。近ごろは松阪肉に押されているようですが、向うは宣伝上手ですよ。最近は国籍不明の商品が増えて東京製は東京でつくったとわかる表示がしてあるけれどほかはわざと産地をかくすんですね。どこでできたかわからない。しかし、神戸肉は「神戸」という名がついているためによけい値打があるわけです。これが大変な大事なことなんです。だから神戸市は、もっともっと積極的に力を入れるべきですね。だいたい、これが神戸といえるものは少いのだから、ほんとに大切にしなければならぬんだな。

大切にしたい神戸の環境

御影に住んでいて、広野のゴルフ場まで行くのに、神戸の街を二時間も走っていくんです。やっぱり細長い街だと思えますね。けれど、この阪神間というのは、日本一です。私は東京にいたときは、毎年冬になると、かならず風邪を引いていた。それがこっちに来てから、全然引かなくなりました。こんな気候の良いところにいて風邪を引くのは、精神がたるんでるからだといってるんで

す。日本一の住宅地ですよ。だから、阪神間の工業の発展も結構ですが、住民にとって日本一の環境を保護したいと思えますね。神戸は都市として青年期にあるので、工業の発展もなくちゃならないでしょうが、神戸はぶつうの商業活動につれて発展していくのがいちばん良い。神戸はせまい、良いところがせまいんです。そこに工場ばかりつくれというのではいけないですね。もうすでに、東の山手のほうでは、かなり公害があります。この生活環境を、これ以上の汚染から守っていきたい。それに神戸は海運の都市でもあるし、工業よりは商業都市なのだから、良い港を育てて、この面で発展しなくちゃならないと思います。

社交クラブのない神戸

趣味ですか。まあ、ゴルフもやりますが、ドライブが好きで、休みの日に琵琶湖とか京都の辺に行ったりしています。クルマの免許を取ってから十数年になります。クルマは実用品だと思っているから、あまり凝ったクルマは使いません。飾りものじゃないんですからね。遠出をしたときには、どこにでも放り出して遊びに行ってしまうって、イタズラされていることがよくあります。およそ失くしたり壊したりして青くなるようなものは使いたくない。カメラなんかもそうです。実用品であって、飾りもんじゃない。失くして青くなるようなもの、そんなに心配しなければならぬようなものは、床の間に飾っておけばよい。持ち歩くのは不健全ですよ。

そういうえばこの神戸にないものがひとつある、それが社交クラブなんです。ロータリーやライオンズでも、集りのあったときだけのもので、一日中をそこで過せるようなクラブハウスをもった社交クラブがない。大阪には大阪クラブをはじめいくつもあるし、姫路にもある。昔は出身大学別のクラブがあったようですが、そんな区別なしでおれるようなところが良い。なにかひとつ、そういうクラブハウスがあつてほしいと思います。

経済ポケット ジャーナル

山陽新幹線表六甲 ルート期成同盟結成

神戸商工会議所（会頭浅田長平氏）が音頭をとって山陽新幹線表六甲ルート期成同盟を十月に結成した。これは新大阪と岡山を結ぶ山陽新幹線の着工が本決りになったが、肝心の神戸市内の通過地点と駅の設置が未定のため、神戸経済界の総意を結集、運輸省や国鉄に働きかけることにしたものの。

この期成同盟は会議所はもちろん兵庫経営者協会、神戸経済同友会、青年会議所、倉庫協会、船主団体など神戸のすべての経済団体をもうらしたもので、会長には浅田長平氏が就任。同盟のねらいは六甲山の南側を通る表六甲ルートを実現し神戸駅をつくることで、浅田氏は「神戸を新幹線が通らないのは不合理だ。国民経済的にみても神戸通過はぜひ必要」と強調している。

中小企業輸出見本市

第六回全日本中小企業輸



出見本市が十月四日から九日まで王子体育館で開かれた。初日は山本中小企業庁長官、坂井兵庫県副知事、原口神戸市長、雀部、沖神戸商工会議所副会頭やミス神戸らも出席して盛大に開会式を行なった。

出品商社、メーカーは七百八十三社で、家具、敷き物、カーテン、人形、工具、軽機械などいろいろとどりの製品約一万二千点が展示された。ことしの特徴は工具軽機械などの出品がふえたことと高級品化が目立ったこと。三十八年の見本市では三万八千四百件余の引き合いがあったが、こんどはこれを上回ったろうとみられている。とにかく中小企業の輸出意欲は盛んで、会場の空気もかなり真剣なものであった。

東南アジア貿易に 暗い影

東南アジアに激動が続いている。インドとパキスタンのカシミール紛争が小康状態に入ったと思うまもなく、新興独立国の意気高い

スカルのインドネシアに九月末から十月初めにクーデター騒ぎが突発、軍部と共産党が対立、「独立の父」スカル大統領の座も揺れ動いている。マレーシア問題、シンガポールの独立南ベトナム問題などもあつて東南アジアは国際政局の焦点。

カシミール、インドネシア問題の余波を受けたのが貿易商社と海運各社。カシミール問題ではインドとパキスタン向けの積み荷は別々の船にしなければならぬというえ、商談はストップ。インドネシアのクーデターもまったくの突発事で、くわしい情報が入らなかつたため、各社ともかなり損失を受けたようだ。まだまだ東南アジアの情勢次第で大きな影響を受ける心配があり、商社筋は暗い顔。神戸貿易振興会結成さる

貿易業界に新しい動きが生まれている。神戸の中堅商社十社がつくった神戸貿易振興会というグループ結成がそれ。貿易商社というお互いに情報をかくし、反目し合うものだが、これでは海外のバイヤーに足を引張られ、いたずらに過当競争劇を生むだけという反省から、気心の知れ合った商社でグループ結成に踏み切ったもの。

このグループ結成は埼玉の物産輸出に協力するため、在神商社二十五社がつくった同志会の活動が先例になつていっているが、地元の輸出増進のグループがないのはおかしいと豊田貿易、木全物産、博好商事などが動いたわけ。石川神戸市貿易相談所長も「商社の振興会結成は大賛成」と全面的に後押しする考え。さつそく静岡、長野に共同で視察に出かける計画を立てている。

KOBEオフィスレディ



大和田泰子（21才）
ウシオ工業KK社長室秘書

時代もボー
学生時代もボー
卒業、学生時代もボー
大のボー
この「手芸」と相愛
「手芸」と相愛
結婚したから可
さく結婚したから可
小早大つけ加えた
間に「早大」つけ加
う間にとつて後
といいつて後
はいつて後
味はいつて後
グランはいつて後
年グランはいつて後
今年グランはいつて後
一リンはいつて後
から外さか意をい

深まる秋のオシャレに
さんちカレディスタウン クロスで
すてきなショッピング

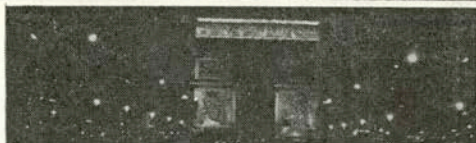


靴と舶来雑貨 **クロス**

舶来雑貨 神戸ア・ロード TEL 330998

婦人靴 三宮地下街(さんちカレディスタウン)

大阪阪神百貨店 TEL 361 1201



♥あなたとパリを結ぶ!

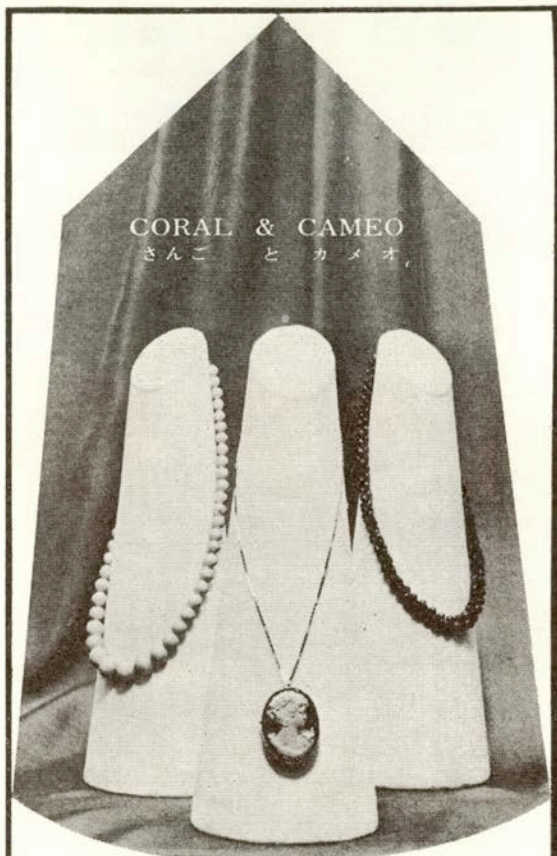


↑さんちカ〈メイゾン・ドング〉TEL 394879

メイゾン・ドング



本店 三宮センター街 TEL 395481-4
 苜屋店 TEL 25137
 サンドウィッチパーラー TEL 395485
 フランスパンコーナー TEL 394985
 須磨寺店 TEL 7118752
 垂水店 TEL 773603



CORAL & CAMEO

さんごとカメオ

homiyama さんごとカメオ専門店

homiyama

神戸国際会館アーケード TEL (22)8161(内線) 333
本社工場

神戸市灘合区上筒井通1/20 TEL (22) 2070

大阪の仲庭時計店が
さんちかハイモードタウンに仲間入
いたしました
神戸へお出かけの時ぜひお立寄り下さい



時 計
宝 石
貴 金 属

神戸三宮地下街(さんちか) 39-4593
梅田新道(堂ビル北) 341-0215
桜橋(毎日新聞社前) 341-0412
新大阪駅ステーションストア 302-6670
新阪急ホテルセイコーショップ
ロイヤルホテルセイコーショップ

仲庭

NAKANIWA

るぼるたーじゅ・コウベ

16

バナナ

松原新一 撮影／緒方しげを

バナナ。インド原産。パシヨウ科の多年草である。日本の場合、バナナは輸入果実類のなかで第一位を占めるつまり、それだけ日本人は果物としてのバナナを愛好しているというわけだ。ある作家の如きは、日本人はバナナを目にかけて集まってくる黒々とした蟻のようだと感嘆したことがある。

また、神戸とバナナのつながりも浅からぬものがある

もともと、日本に入ってくるバナナは、すべて神戸を通じて全国に流れていたのである。ここにも日本の中心港たる神戸の特色が生きている。そこで今月は、バナナをめぐるさまざまな話題を追っかけてみよう。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

三本の兵庫突堤がある。中之島のあたり。そのうち、最も新しいのが兵庫第三突堤だ。海面を埋め立ててできた。当初は、石炭専用の突堤にする予定だったが、石炭の不況のため、今では輸入バナナの荷揚場にかわっている。

店頭に新鮮なバナナが並ぶのも神戸の特色だ



某日。兵庫第三突堤に行く。そこに神戸バナナセンターがある。白い建物。大きな倉庫が五つある。荷揚げしたバナナが倉庫に納められている。バナナは、大きなカゴにはいつている。まだ、青く、かたいバナナだ。五つの倉庫を全部使えば、ざっと四万カゴくらいを収容できる。そのカゴに

は、青や赤の印しがついていて、それぞれ日本内の行先が一目で分るようになっていた。その色分けを見れば、これは静岡、これは九州ということがすぐに分るのだ。

朝の九時すぎから植物防疫所と税関の検査が始まる。悪質な伝染病の国内侵入を防がなくてはならない。ペストやコレラなどの病原菌が附着していたら大変だ。といっても、全部をいちいち検査している余裕はない。バナナは気候条件の変化に敏感に反応する。荷役、検査、通関、荷捌きなどの手続きを可能な限り手つとり早く行なわなくてはならぬ。検査もまた、任意のいくカゴかを抽出してすませるわけである。

それがすむと、直ちに荷捌きが始まる。倉庫の前にトラックが集まってくる。倉庫からトラックまでベルトコンベヤーがつながれる。

よいしょ。かけこえととともに、バナナをいれたカゴを次々とコンベヤーベルトに乗せてゆく。ゴトゴト揺れながらバナナカゴが流れてゆく。屈強な男たちが二人がかり、三人がかりでカゴを持ち上げる。傍の人に

「どのくらい重い重さですか？」

ときくと、

「四十五キロ」

ぶつきら棒な返事がかえってきた。無駄口などひとつもききたくないというような顔だ。埃りが白く舞う。男たちの顔に汗がにじむ。うず高く積まれたバナナカゴの山のなかで、「よいしょ」というカケこえが響く。

トラックの上にも男たち。コンベヤーから流れてくるカゴを、トラックの荷台に積みあげてゆく。簡素な流れ作業である。

片手にメモと鉛筆をもち、積みあげられたカゴの数をかぞえてゆく男。潮の香りがする。岸壁に波がうつつける。

積荷を終わったトラックが突堤を走り去ってゆく。佐世保から来ているトラックもある。静岡へ走るトラックも

ある。こうして輸入されたバナナが日本各地に運ばれてゆく。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

先にもいったように、神戸は日本で唯一のバナナの荷揚港だった。だいたい、日本にバナナがはいりだしたのは、明治三十五年頃といわれる。もちろん、台湾からはいつてきた。

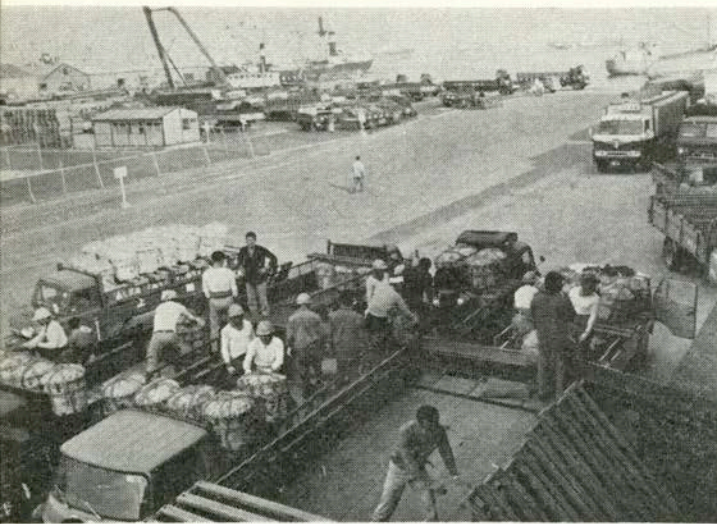
昔は、台湾は日本の領土であった。それは、輸入というより、内地へバナナを出荷するという形だったといえる。

台湾バナナを育てたのは日本の技師である。今日、台湾バナナを日本人は一等愛好しているが、その基礎をつくったのは日本人だといえるのである。むろん、荷受人も仲買人もすべて日本人であった。

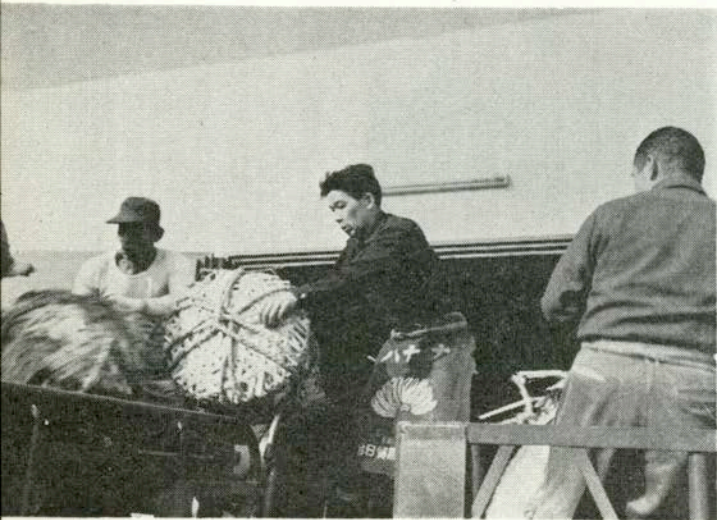
関西バナナ協議会の岡本重敏氏から聞いた話をひとつ「ご承知のように戦前と戦後では、バナナという商売も、だいぶ様子が変わってきています。

日本に入ってくるバナナは、ほとんどが台湾のバナナですが、戦後は台湾は日本にとって純然たる外国になったわけですね。昭和二十五年頃と思いますが、台湾出身のいわゆる新華僑の業者が輸入の実権を握っていて、日本国内のアメリカの軍隊に納めるために、バナナをどんどん輸入したわけですね。ところが、それには品質の面でいろいろな規格があったのです。それで余り良質のものでないために、軍に納めるわけにいかなくなる場合があった。といって、捨てるのもバカらしいということになって、そういうバナナが日本で市販されるようになったのです。それが、戦後日本にバナナが出まわり始めた最初ではないでしょうか。

昭和三十八年の六月からはバナナも自由化されたし、今年の八月には台湾の統制も廃止されたわけで、まあ、戦後の大勢としては日本のバナナ業者は、おおむね台湾に押えられていたという感じですが、最近はやほど事情が変わってきたといえるでしょうね。



バナナの荷捌きは迅速果敢を必要とする
ベルトコンベヤーで次々とバナナカゴが流れてくる



今は神戸だけではありません。晴海や横浜でもバナナを扱っています。しかし、六〇%は今でも神戸経由で全国に流れているのですね。ひとつは昔からの歴史がありますと、もう一つは神戸のもっている地理的条件が役立っているのですね。日本のちょうど中間に位置しているわけで、いろいろ運搬に便利点がある。早い話が、横浜に荷揚げしたのでは、九州へ運ぶ段になると不便なわけですよ。それに、現在では神戸港ほど港としての設備とか機構が完備している港は、日本には他にありませんからね。

台湾バナナだけしか入らないというわけではないのですよ。中南米からもくるし、ベトナムからも、タイからもくる。ただ、日本人は昔から台湾バナナにずっと親しんできたんですね。その味になれているから、台湾バナナ以外は、あまり喜ばない。台湾バナナ、台湾バナナといっているけれども、まア、習慣でしょうね。台湾として

も、日本は絶好のバナナ市場なんですね。とにかく国内のバナナ消費量はべらぼうに増えている。神戸で、年間七百五十万カゴくらい輸入しておりますね。しかし、需要が多すぎて、このごろちょっとバナナの品質が落ちたように思います。

先年のコレラ騒ぎの時のことですか？あれには弱りましたよ。別にバナナにコレラ菌がついていたわけでもなんでもありません。ただ、台湾にコレラが発生したというだけなんですね。ところが、厚生省は全部捨てると言う。仕方がないから潮ノ岬の沖まで捨てて行きましたよ。」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

商売としてのバナナ売買は、もともと投機性の強いものだった。へたをすると、全部ダメになるからだ。運搬の途中で、気温の変化に会い、腐ってしまうこともあった。台風のために、元も子もなくなる場合だってある。

コレラ騒ぎなどが起こると、お客はタダでも買おうとしない。

だが、今はだいぶよくなった。輸送船にしてもバナナ専用船ができて、途中で腐る恐れのないように設備が完備されている。

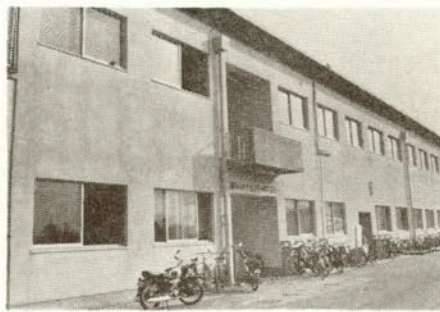
また、到着後、バナナを室（むろ）に入れてガスクン蒸で追熱させ、外皮が黄色くなり放香を放つまで待つのだが、その室の設備にしても、今はほとんどオートメーション化している。昔はガスコンロの火で加熱し、熱くなりすぎると氷で冷やしていたらしい。

だが、とにかくバナナというのは儲かるのである。資本に対する利益率の高さという点で、バナナの商いにまさるものはないといわれる。とにかく輸入権さえ持てば誰でもやれる商売なのだ。神戸の海産物問屋など、バナナを扱っているからこそやってゆけるのだともいわれる。大手の商社にしても、ほとんどがバナナ部門をもっているのである。

それだけに、この輸入権の獲得をめぐる、いろんな対立、争いがあった。

特に、戦後は輸入統制、為替統制などのため、割当制ということになった。そこで、輸入割当の権利をめぐって、輸入業者、加工業者などが入り乱れて対立抗争したこともある。その裏で政治家が動いたこともあるらしい。バナナが儲かりすぎるからだろう。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇
バナナのたたき売り。街頭でよくみかける。青いバナナが多い。



神戸バナナセンター

さあ、買った、買った、のかけごえにつられて買うととんでもないバナナだったりする。かたくて、とても食べられたものではないという場合がある。筆者もそれで以前、苦い経験をしたことがある。たぶん、室で加工していない不正の品であろう。

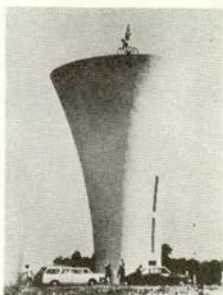
店頭で一山いくらで皿盛りしているバナナも、実は品質良好とはいえない。あれはジクといって、茎のところがかくさっているのである。いわゆるハンパものである。捨てるにしのびず、というので売っているのである。

不良品にもいろいろある。冷たい風に当たって、中身がカスカスになっているのが風ひき。外皮は青いが、中身はぶよぶよというのが青ぶく。まっ黒に腐敗しているバナナがクサレ。

最後に、あるバナナ師の言葉をひとつ。

「だいたいバナナは、年柄年中はいつてくる。冬だけとか夏だけというものじゃない。それだけに、日本人には親しみのもてるくだものといえるでしょう。」

それに、バナナは日本へ到着してからうまいくだものに生まれ変わるんですよ。船で積んできたバナナが、そのまま店頭で並ぶと思っている人が多いですがね。そうじゃありません。バナナは色づいてこなくちゃダメなんです。人間と何じことで、色気が出てこなくては一人前とはいえませんよ。それを日本でやってるわけですよ」



と第
この次
のり
竹とんぼから
映画
天使まで ②②
淀川長治

冬の朝いちめんの銀世界。その雪の白さで目もまばゆいとき、青空に赤い綿毛が二つ三つ飛び散るのを……ご想像になれますか。

私の子供のころ、みんな可愛いいつるつるてるの両手両足、によっきつと出たもめんの久留米緋(かすり)それには肩みやげ腰みやげがついていて、その腰みやげ、それがちょうどおなかのあたり、私たちはその腰みやげの裏に赤・白・桃・紫・黄の小さな絹綿の親指くらしいのをそつとかくすようにくつつけて、それを天気の良い日には小さな指先でつまんでふつと空に吹き上げ遊んだものでした。

それはシャボン玉よりも一層民芸的で、雪の日も「雪やこんこん……」と歌いながらその白い粉雪にまじって赤い絹綿の小さなのを吹き上げたもの。

これが少年になると竹とんぼになって、竹のへらの表は赤に裏は黄の、それを両手でもんで勢いづけてヒュツと

空に舞い上げるその虹の花の空たかく散る美しさ。

というわけで人間は、月に星にその詩情をふくらませやがてその空にあこがれ夏の夜の花火、五月の空の鯉のぼり……と、空中の流動の詩は、夏の入道雲、秋のいわし雲、冬の灰色の雲にまでそのファンタジイはつきるものでなし……のそのあこがれ。

×

映画がこの空の詩を見逃すわけもなく、ついさきころ



写真は皆アルベル・ラモリス監督「ファイイ」より<フィリップ・アブロン>

の「素晴らしきヒコーキ野郎」。老父がその昔スエーデンから輸入したご自慢のギツコンギツコンのロツキングチェア(揺り椅子)がそのまま空に舞い上ったごときエレガント・ヒコーキのむれ。

フランスのアルベル・ラモリスはこの空の詩を「赤い風船」「素晴らしい風船旅行」にたんのうさせ、漫画のアメリカの王将ディズニイは蚊とんぼ妖精のティンカー・ベルや三人のおばさま妖女の空馳ける楽しさを、さらにこんどは「メリー・ポピンズ」でジュリー・アンドリュースをもの見事に空に泳ぎ上らせて、映画はこの空中の詩をなんとも美しく楽しませてくれるものであります。

×

ところがここにそのアルベル・ラモリスがまたしても、空の詩を、こんどは天使を主人公にお見せする。題して「ファイイ大空をゆく」

泥棒。妙な泥棒。お金よりも時計が好

き。しのび込む。失敗。逃走。逃げこんだのがサーカス。この男ファイイ。たちまちブランコ乗りの少女ミミに首っただけ。団長が人間をサーカス天幕の頂上から二枚の羽根をつけて地上にとび下ろす鳥人の実験。失敗。その男の惨死。その死体をタンカで運ぶところへ逃げこんだのがファイイ。これを演るか警察につき出されるか。ファイイは警察よりも死ぬことよりもミミで胸いっぱい。毎日の練習。その当日の鳥人特別出演。ところがファイイは

飛べた。フィフィは天幕の中を上を地上すれすれを不思議や自由自在。

フィフィ天使はミミのため空を飛び時計店に舞い下りて時計を盗み、またある日ある時計商人の窓口にしのび込む。ところが今しもその若き時計屋、首吊り寸前、聞けば哀れ失恋の嘆き。さらに聞けば相手はさる大富豪令嬢自分は貧乏職人上り。月とスッポン。さらに聞けば今しもご令嬢はさる富豪紳士と無理矢理結婚式のまっさいちゆう。

フィフィその教会に飛び去った。見あげるステンドグラスの丸窓から覗くフィフィ。場内は時あたかも天使の降来と驚きと喜び。ふんわり降り立ったフィフィはその場で結婚相手の入れ替え命令。

×

と……こんな筋ばった筋はこの映画の第二第三の構え実はこの天使の空馳けるさまがまるで詩となり漫画となりモダン・アートとなつてゆくそのラモリスこのフランス人の詩情にとことん惚れこんじまいます。

逃げるフィフィが畑にかくれました。四方八方から追いかこみます。トラックでひき殺ろそうとエンジンの音たかくトラックの襲来。畑のあちら、畑のこちら、その

逃げまどうフィフィの姿は見えませんが。ただし真白な二枚の羽根が畑の中をあちらこちらと走るその可愛いさ哀れさ。春の野の「ひばりと悪童」のファンタジイ。

フィフィついに白い馬で逃げる。天馬の美しさ。つづいてフィフィ自転車に乗り変え、自転車もろとも空へスーッと円を描いて舞い上る。

このフィフィ自転車天使、空から見下ろす白い巨塔にふんわり下降。その塔上でひと休み。これを狙つて地上の連中、ヘリコプターでの一大追跡。

ラモリスはモダン・バレエの演出者が小劇場で演じた天使のバレエをフィルムという黒と白の光りの魔術の中で、一時間十九分という楽しくも手ごろのその時間のうちに黒白フィルムをもつて見事にお見せする。こうなるとよほど手で描く動く漫画も、その感覚、その写真、そのファンタジイに豊かさを加えねばたまたまものではありますまい。

一九〇二年、フランスのメリエスが「月世界旅行」にその空想科学の夢をフィルムにとりこんだ。そのそもそもから映画があがれた空の詩が、いまこうなつて、それがいまにシネラマでどんなことになることやら、やっぱり私は映画が楽しいのであります……。〈映画評論家〉



写真はフィフィ自転車天使